

乳児閉塞性黄疸の内視鏡的診断

順天堂大学小児科 山城雄一郎
 間山春樹
 山本浩一

新生児の閉塞性黄疸、特に新生児肝炎と先天性胆道閉鎖症の鑑別は困難なことがある。私どもは、内視鏡により胆汁が12指腸へ直接流出するのを確かめることにより、乳児肝炎と先天性胆道閉鎖症との鑑別をしようと試みた。

方法：

閉塞性黄疸を呈する新生児3例に対し、2例はケタラル麻酔により、他の1例は麻酔なしで、オリンパス製の気管支ファイバースコープを12指腸内に挿入し、ファーター乳頭部からの胆汁の流出の有無を15分間観察し、流出が見られた場合にはそのまま撮影を行って終了した。流出が見られない場合には、パンクレオザイミン1.5 u/kg を静注し、さらに15分間観察して流出の有無を確かめ終了した。

結果：

3例中2例では、まったく胆汁の流出がなく、12指腸液は黄色を呈することがなかった。1例では、挿入直後より黄色の12指腸液が確認された。その後の経過および手術の所見より、先の2例は先天性胆道閉鎖症であり、後の1例は肝炎であった。

考按：

ファイバースコープの技術によって、胆管の不完全閉塞を呈する新生児肝炎と完全閉塞を呈する先天性胆道閉鎖症とを胆汁の流出の有無を目で見るにより確実に鑑別できることは画期的であると思う。今後は麻酔を用いることなく行うこともできると考えている。ただし、この際の危険性は皆無ではないので熟練を必要とするであろう。

Alpha-fetoprotein の免疫機能抑制効果について

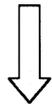
帝京大小児科 伊東 繁
 吉野 加津哉
 牛島 広治

先天性胆道閉鎖 (CBA) あるいは新生児肝炎 (NH) などの患者の血清中に高値を示す Alpha-fetoprotein (AFP) は、リンパ球の幼若化反応、リンパ球混合培養などにおいて細胞性免疫機能を抑制する作用のあることをこれまでたしかめ、報告してきた。また、リンパ球を PWM で刺激して培養すると、in vitro で抗体産生がおこるが、この反応にも AFP が抑制的に働くことを蛍光抗体法によってたしかめてきた。

この抗体産生に対する抑制作用はおそらく Tリンパ球を介して働くものと考えられるが、今回我々はヒツジ赤

血球に対する抗体産生をプラーク形成によってみる方法 (SRBC-PFC) を用いて、AFPの作用のメカニズムを検索しようと試みた。

方法は、図1に示すようにヒト末梢リンパ球を SRBC、PWM とともに培養し、その培養リンパ球にさらに SRBC、補体を加え、Cunningham チェンバーを用いて direct PFC の出現を溶血球の形成によってとらえた。表1に示すように、7日間の培養によって最も PFC の出現が多くみられたため、以後の実験においては、すべて7日間の培養期間とした。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



新生児の閉塞性黄疸,特に新生児肝炎と先天性胆道閉鎖症の鑑別は困難なことがある。私どもは,内視鏡により胆汁が12指腸へ直接流出するのを確かめることにより,乳児肝炎と先天性胆道閉鎖症との鑑別をしようと試みた。